

船内クラスター経験語る 田村厚労大臣らが登壇

在宅医療政治連盟は17日、「第4回在宅医療の集い」を開催。来場オンラインで総計300名が参加した。当日は「新型コロナウイルスと在宅医療」をテーマに、橋本岳衆議院議員、自見英子参議院議員が登壇し、クラスターが発生したクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」での経験について語った。

在宅医療政治連盟



島田潔会長

冒頭の挨拶で島田潔会長は「この連盟は在宅医療現場の声を政治に届ける目的でスタートした」とした上で、「厚生労働大臣に、現場を良く知る田村憲久氏が就任したことは医

療従事者にとって大きな喜びだ」と語った。続けて登壇した田村厚労大臣は、新型コロナウイルスの影響による受診控えの問題を取り上げ、健診や予防接種まで自粛してしまわないよう、国民に呼びかけていくとした。また、新型コロナウイルスを受けて活発化したオンライン診療について「初診を含め

て、恒久化に向けて動いている」と言及。「かかりつけ医が遠隔でバイタルデータを観ながら診察し、必要に応じて往診するといった方法も活用しつつ、地域医療を守っていかねばならない」と、限られたマンパワーを有効活用するため、ICT活用の必要性を訴えた。薬の確保が難航情報管理課題に

クルーズ船内の様子について、橋本議員と自見議員は、約2700名の乗客の多くが高齢者で、基礎疾患を保持していたと状況を説明。感染の封じ込めについて橋本議員は「乗客

乗客の多くが基礎疾患 ステイルーム・消毒徹底

はステイルームとし、船内で仕事をするクルーにはマスク・消毒、食事の際に向かい合わないようにするなどを徹底させたことで、感染拡大を防止できた」と、一定の成功を収めた」と評した。

第4回「在宅医療の集い」 在宅医療とクルーズ船



ICT活用の必要性を訴えた田村憲久厚生労働大臣

その一方、不足した薬の確保、下船者リストの管理、乗客からの相談電話対応など、情報の管理体制に課題が残ったとした。

薬については、船内で使用している処方フォーマットを乗客に手書きで書いてもらいクルーらが回収、必要な薬品を取り寄せることとなった。しかし、記入された薬品名は英語など様々な言語で記載されていたほか、国内で流通していないものの、規格・用量の違いがあるものも多く、取

り寄せから誤薬防止のチェックまで慎重に行わなければならない、時間を有した。また、メディカルセンターには「いつ下船できるのか」「いつ薬が届くのか」などの電話が非常に多く、パンク状態であったという。橋本議員は「今振り返れば、企業から提供されたスマートフォンを用いて遠隔診療をするなど、工夫できることは沢山あった」と振り返り、参加者に教訓として欲しいと語った。



橋本岳衆議院議員がクルーズ船内の感染コントロールについて語った